

下松市・報道発表（配布）資料

令和8年9月30日

部 課 名	課 長	担 当	連 絡 先（直通）
図書館	網本 浩明	塩月 真彦	0833-41-0093
1. 件 名	「消えゆく記憶を未来へつなぐ 山口県の空襲を伝える写真展」及び写真展記念講演会「アメリカが記録した下松空襲」の開催について		
2. 目 的	1945年（昭和20年）、山口県下の都市や工場は米軍による集中的な空襲を受け、多くの犠牲者が出て市街地は廃墟と化しました。 アメリカの国立公文書館には米軍の写真偵察機が空襲の前後に撮影した航空写真が多数保管されており、山口県空襲展実行委員会共同代表の工藤洋三氏が長年アメリカに通いながら収集した貴重な写真について、下松市並びに県内各地の資料を展示します。 また、会期中の10月25日（日）には、工藤氏による講演会も開催します。 戦後81年が経過し、当時の記憶や街の姿が遠くなる中、山口県や下松市が受けた空襲の痕跡を通して、土地の歴史や平和の尊さを見つめ直すことを目的に開催します。		
3. 日 時	【写真展】令和8年10月23日（金）～令和8年10月31日（土） 図書館開館時間：（火～金 9：30～18：30、土・日 9：30～17：30） 最終日は16：00まで。 ※月曜は休館です。 【記念講演会】令和8年10月25日（日）14：00～15：30 「アメリカが記録した下松空襲」 講師：工藤 洋三 氏（山口県空襲展実行委員会 共同代表、空襲・戦災を記録する会 事務局長、徳山工業高等専門学校 元教授）		
4. 場 所	【写真展】下松市立図書館 郷土資料室 【記念講演会】ほしらんどくだまつ サルビアホール		
5. 主催者	主催：山口県空襲展実行委員会 共催：下松市立図書館 後援：下松市・下松市教育委員会		
6. 内 容	主な展示資料 ①下松市街地の写真 ②日立製作所や日本石油などの工場地帯の空爆写真 ③市内に今も残る爆弾クレーター（40箇所以上）の説明パネル ④500ポンド爆弾の実寸模型 ⑤県内各地の空襲写真		

消えゆく記憶を未来へつなぐ 山口県空襲を伝える写真展

入場無料

会場 下松市立図書館 郷土資料室 〒744-0015 山口県下松市大手町2丁目3番1号

展示期間：10月23日(金)～10月31日(土)

火曜～金曜 9:30～18:30

土曜・日曜 9:30～17:30

10月26日(月) 休館日

最終日10月31日(土)は16:00まで



山口県空襲展実行委員会の
Facebook

大判パネルで知る郷土の歴史

展示品はスマホで撮影できます

大谷ダム

慶雲寺

日立製作所笠戸工場

日本石油下松製油所

1945年(昭和20年)7月5日の下松
米軍の写真偵察機が6月30日の空襲後に撮影した
航空写真で、市内のあちこちに爆弾穴が認められる。
目標とした日本石油下松製油所のタンク群は被害が小
さく、7月15-16日に再度の空襲となった。

主催：山口県空襲展実行委員会

e-mail: yamaguchi.kushuten@gmail.com

後援：下松市・下松市教育委員会

公益財団法人

山口きらめき財団

YAMAGUCHI KIRAMEKI FOUNDATION

この事業は山口きらめき財団の助成金を活用しています

山口県内各地の戦時中の航空写真を展示します

1945 年（昭和 20 年）、山口県下の都市や工場は米軍による集中的な空襲を受け、市街地は廃墟と化し、多くの犠牲者を出しました。

アメリカの国立公文書館には、米軍の写真偵察機が空襲の前後に撮影した航空写真のネガフィルムがたくさん保管されています。

高解像度の画像を大判パネルにして展示しようと、戦後 80 年の昨年、山口県空襲展実行委員会を設立しました。パネル製作のためクラウドファンディングを実施し、多くの方からご支援いただきました。

昨年は、周南市立中央図書館で 1 回目の写真展を、今年 8 月には岩国市民文化会館で 2 回目の写真展を開催しました。今回 3 回目を下松市立図書館で開催いたします。

『下松市史』によれば、下松は、終戦の年に 6 回の空襲を受けました。写真展では、大きな被害をもたらした日本石油下松製油所や日立製作所笠戸工場に対する空襲の背景について解説するパネルも展示します。横幅 1.4m の大判パネルに拡大された航空写真は、空襲の悲惨はもちろん、郷土の歴史を知る上でも貴重なものです。

多くの方のご来場をお待ちしています。



1945 年（昭和 20 年）7 月 5 日の下松市街地



1945 年（昭和 20 年）8 月 14 日の徳山（現在の周南市）市街地

講演会案内

アメリカが記録した下松空襲

開催日：10 月 25 日（日）14:00-15:30

講師：工藤洋三氏（山口県空襲展実行委員会共同代表）

内容：戦争の末期に、なぜ下松が空襲を受けたのか、空襲の背景にどんな目的があったのか、米軍資料に基づき解説します。

会 場：ほしらんどくだまつサルビアホール

〒744-0015 山口県下松市大手町 2 丁目 3 番 1 号

主 催：山口県空襲展実行委員会

問い合わせ：e-mail：yamaguchi.kushuten@gmail.com



会場案内図



2026 年（令和 8 年）8 月に岩国で開催された写真展の様子
来場者に空襲の際に投下された 500kg 爆弾の大きさを実感していただくために実寸大の模型（戸取征二郎氏製作）を展示しました。

写真展「消えゆく記憶を未来へつなぐ 山口県の空襲を伝える写真展」
開催記念講演会

『アメリカが記録した下松空襲』

戦争の末期に、なぜ下松が空襲を受けたのか、空襲の背景にどんな目的があったのか、米軍資料に基づいて、山口県空襲展実行委員会共同代表の工藤洋三氏が解説します。



日時：令和8年10月25日(日)
14時～15時30分

会場：ほしらんど くだまつ
サルビアホール

定員：80人（要申込み）

講師：工藤 洋三 氏

（山口県空襲展実行委員会 共同代表、空襲・戦災を記録する会 事務局長
徳山工業高等専門学校 元教授）

徳山工業高等専門学校の教授として勤務する傍ら、アメリカの公文書館に長年通い、米軍が撮影した空襲写真等の資料を収集。戦争被害を伝える書籍を多数出版しているほか、令和7年度からは山口県空襲展実行委員会共同代表として、山口県の空襲を伝える写真展を各地で開催している。



1945年7月5日の下松市街地

〔申込み・問い合わせ先〕

下松市立図書館 TEL 0833-41-0093